

# 情報社会の課題に対応する態度の涵養を目指す授業 の提案

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 理数・自然科学系（情報）

本実践研究は、情報技術の進展に伴って生じている社会の諸問題に対応する態度の涵養に資する授業の提案をするものである。授業展開については、Common Sense のデジタル・シティズンシップ教材の構成<sup>[1]</sup>を援用し、4つのステップからなる授業フレームを設計した。『情報社会の課題に対応する態度』の評価規準として、「思考の柔軟性」「他者視点の獲得」「共感・尊重」の3つを設定し、それらを生徒のワークシートの記述から見取るためのルーブリックを作成した。ルーブリック評価を数値化し分析を行った結果、「思考の柔軟性」の得点が有意に上昇していた。また、アンケートによる調査を実施したところ、「常に相手の立場に立って、相手を理解するようにしている」などの項目についての平均点が有意に上昇していた。一方で、効果的な授業のテーマ設定や生徒自身に学習活動の意義を実感させることなどの課題も残った。今後の展望としては、本授業実践のフレームでの学習の頻度を増やしたときの効果の検証などを行ってきたい。

[1]Common Sense Education. “Teach Digital Citizenship with Dilemmas and Thinking Routines”. Take a Stand Student Handout.<https://www.commonsense.org/education/digital-citizenship/digital-dilemmas>. (参照：2023-02-06)